

大和市自立支援協議会 第2回定例会 議事録

場 所： 保健福祉センター 1階検診室
日 時： 平成19年12月12日 16:00～18:00
出席者： 下記参照

出席者：定例会委員(敬称略、順不同)

西原毅(県央療育センター施設長)、芳賀康寿(ワークステーション・菜の花施設長)、
佐野文彦(あゆみの家所長)、遠藤八重子(社会福祉協議会 居宅介護センターサービス提供責任者)
関水貴浩(福田の里施設長)、澤田真理子(大和保健福祉事務所 保健予防課長)、
前田富生、深沢誠(瀬谷養護学校 地域支援担当)、入岡公司(障害福祉課長)
村尾朗(サポートセンター・花音所長)、目黒裕(松風園施設長)、
星野宗吾(自立支援センター センター長)

事務局

熱田辰雄、坂本勝敏(障害福祉課)、林伸樹、岩淵陽子(サポートセンター・花音)、
山田兼右(松風園)、佐藤倫孝(自立支援センター)

欠席者：西山誠一郎(教育委員会)

内 容：・会長挨拶

・議 題

1. 相談支援事業所の活動報告について

別紙. 1(個別ケース活動報告)を基に、地域の課題として共有できる事例を各事業所から2
ケースずつ発表。

- ・事例1 「精神障害者の話を聞いて欲しいというニーズへの対応について」(支援センター)
- ・事例2 「身体・精神障害のある人の地域移行(単身生活)支援」(花音)
- ・事例3 「家族全体への支援を必要とした学齢児の子育て相談について」(松風園)
- ・事例4 「既存サービスに頼らないプログラム活動について」(支援センター)
- ・事例5 「身寄りのない知的障害のある人の出産(育児)に向けた支援」(花音)
- ・事例6 「不登校になっている児童の相談について」(松風園)

・全般的な意見等

- ・保健分野(育児や精神、難病等)については、保健所の持っているスーパーバイズ機能等も活用しながら、支援に当たっていただければと思う。
- ・対象者の幸せを第一優先に考え、関わる各事業所が、それぞれの特徴を活かしながら、支援にあたっていただければ良いと思う。

※個別事例についての質疑応答等の詳細については、個人情報保護の観点から省略。

2. 部会活動報告

各部会担当者より、別紙. 2（専門部会活動報告）を基に報告を行った。

・児童部会

・活動報告

・テーマについて

テーマは、「乳幼児等早期療育システムについて」と「学齢児の支援システムのあり方について」の2点が挙げられたが、今年度はまず、「乳幼児等早期療育システムについて」というテーマで検討してきている。

・今までの経過

・まずは、他市（座間市）のシステムと比較して大和市の現状と課題点の整理を行った。その中で、子ども自身に障害などの支援の必要性の感じられる子ども達が、「障害福祉課」の療育相談へ相談するためには、敷居が高く、気軽に相談できるシステムが大和市にはないことが大きな課題として挙げられた。そこで、1歳半、3歳半健診後等の支援ニーズの把握・整理のために、保護者の不安があれば、気軽に参加できて身近に相談にのれる場として、「(仮称)すこやか相談ひろば」の設置を検討し、新たな相談システムとしての必要性を確認してきている。

・現在は、「(仮称)すこやか相談ひろば」を経た後の支援先における現状の課題、足りないサービスについての検討を行ってきている。各関係機関で感じている課題、また他機関について感じられる課題について一つ一つ検討している。

・全体的に、障害児の療育システムという視点ではなく、「子育て支援」の視点で身近に相談ができ、子どものライフステージに応じた一貫した支援を提供できるようなシステム作りを目指している。「学齢期における課題」については、来年度から本格的に検討する予定。

・今後の予定

・児童部会主催研修を予定している。日時は、平成20年1月28日（月）15:00～17:00。講師に横浜市中部地域療育センター 医師・医学博士の原 仁氏をお招きする予定。テーマは「子育て支援としての療育的支援（仮）」となっている。

・3月までに、就学前の支援システムについてのまとめを行い、4月から学齢児の支援システムについて話し合いをする予定である。（事務局）

・質疑応答等

・5歳児健診を実施している市町村があるが、大和市では、5歳児健診について検討されていないのか？

↓

担当部署が障福課ではないので、はっきりとした返答は出来ないが、おそらく5歳児健診については、検討されていないと思う。但し、そういった要望があったということについては担当部署に伝える。（障福課）

・児童に関する相談の内訳は？日中一時支援事業についての相談もあるのか？

↓

支援力の弱い家庭からの相談、不登校、引きこもりについての相談が多い。また、就学児については、放課後の過ごしについての相談から、日中一時支援事業の利用に繋がるケースもあるが、数的には多くない。(事務局)

- ・児童部会で、児童の日中一時支援事業について検討して欲しい。福田の里も保護者からの要望で懇談会を2回実施している。綾瀬・大和の利用者は80名いる。就学児童の日中一時について、児童部会でも早急に検討して欲しい。

↓

来年度の児童部会で、学齢児への支援について検討する予定である。(事務局)

↓

就学児の日中一時支援事業については、要望が多いので、小学4年生以上の受け入れも含め、枠の拡大の検討をお願いしたい。

- ・生まれてすぐに障害のわかる子ども達のサポートについて、検討に挙がっていないので、今後検討して欲しい。1、2ヶ月から母親のサポートをしっかりとできるシステムについて検討して欲しい。

↓

市の現状としては、1歳以降の対応が主となっており、0歳児への対応枠はない。

↓

(障福課)

保健所ではダウン症の会、心疾患の会など1回/月、予算のない中で保健婦が実施している。ピアカウンセリングもサポートにおいてはとても重要な役割を担っている。地域の課題として検討して欲しい。

・精神部会

・活動報告

精神部会では支援システムの確立を大目標とした。そのたたき台として保健福祉事務所の土屋氏よりフロー図が提供された。今年度は事業所間の情報共有と相互理解を重点的に行うため、一覧表(別紙)を作成。課題としてあがった、家族支援、ピアカウンセリング(憩いの場の点在)、自殺予防対策等についても今後フロー図と絡めていく。その他部会主催の研修会を開催し、神奈川県保健福祉センターの矢花氏に精神疾患理解の入門編となる講演をしていただいた。部会メンバーについても随時見直しを図っていく。(事務局)

・質疑応答等

- ・市内には、精神障害者向けのグループホームはあるのか?

↓

リバーシティ大和((NPO) 大和さくら会運営) と森の家((医法) 正史会運営) の2箇所がある。

- ・就労部会

- ・活動報告

就労部会では、就労支援に関する情報集約・共有の場となることを目的に活動しており、その第1歩として、アセスメントシート作成を通して、支援者側が就労支援に関して必要且つ共通した視点を持つことを目標として作成にあたっている。来年度は、アセスメントシートの使用を開始し、実践を通して、対象者へ就労に向けた意識付けとともに支援者が共通視点を持てるように努めていく。また、現場職員(実際にアセスメントや支援を行う職員)同士でのワーキンググループを作り、アセスメントの修正や勉強会を行い、地域としての就労支援の質を高めていけるように働きかけていく。来年度以降は、身体、精神障害者向けのアセスメントシート作成も進めていく予定で、必要に応じて部会の構成委員の変更も行っていく。(事務局)

質疑応答等

- ・他地域でのアセスメントシートも参考にしているとのことであるが、どのような物か？

↓

横浜北部就労促進ネットワークのアセスメントシートを参考としている。「誰でも、何処でも、簡単に」「支援者側に就労支援に必要な視点を養う」ということをキーワードに作成にあたっている。(事務局)

- ・就労支援を行うにあたり、ぽむ(県央地域就労援助センター)との連携は？

↓

枠組みを決めての連絡調整会議等はないが、ぽむで支援をしている大和市在住の障害者(主に精神障害者)の支援の引継ぎ等、必要に応じて連絡を取り合っている。(事務局)

- ・ぽむには、アセスメントシートはあるのか？

↓

就労支援を行うにあたり必要なアセスメントシートがある。(委員)

3. 相談支援事業に求められるもの

- ・別紙. 3(相談支援事業の実績について)を基に、10月末までの業務実績の報告。(事務局)

- ・報告への質疑応答等

- ・個別ケース活動報告の積み重ねにより、地域で抱えている課題を洗い出していければということであるが、どのように課題の整理をするのか？また、相談支援事業所でその整理をする時間的余裕はあるのか？

↓

事務局会議で、課題等の整理を行い、定例会に報告をしていく予定である。また、委員の皆様にも、相談支援事業がどのような事業なのかを知っていただくためのケース活動報告でもあるため、象徴的なケース活動報告を今後も行っていく。(障福課)

- ・相談支援事業について、対象者に向け、どのような広報を行ったのか？また、対象者の内、何名程度の方が利用されたのか？

↓

広報やまと、ホームページへの掲載及び、各サービス提供事業所、学校関係(含、近隣4養護学校)、関係機関への事業開始の挨拶・説明とパンフレット配布を行った。また、福祉サービスを利用していない知的障害者(約80名)に対しては、ダイレクトメールを送付した。

利用人数については、市内障害者約7000名中、月約100名(実人数)の方が利用している。(障福課)

↓

相談件数が伸びてきていることは良い傾向だと思う。利用者に対してもどんどん相談に行ってみるよう伝えていく。

- ・事業を進めていく中で、課題となる事項を積み重ねていくことにより、課題解決のための問題提起をしていきたいとのことであるが、数値的な積み重ねだけでなく、日々の業務にあたっている相談員が課題として肌で感じるものも大切にしていって欲しい。

4. その他、質疑応答

- ・自立支援法の改正について、12月に国、1月に県で会議が行われるため、詳細な情報が入り次第、皆様に周知したいと考えている。
- ・大和市では組織改編があり、保健福祉部は福祉部、健康推進部、こども部の3部に分けられる予定である。(後日、大和市第4回定例会(12月議会)において原案否決された。)
- ・自殺対策について、県からモデル事業の指定を受けているため、自殺対策についても力を入れていかなければならない課題である。また、必要な情報については、皆様にもお伝えしていく。
- ・相談支援事業の拡大(新事業所への委託)についてであるが、H20年度予算において事業所増設分の予算要望を行っている。(以上、障福課)

以 上